

まず、同じように空中を飛んでも、**ロケット打ち上げ**は、**ボール投げ**とは違います。

その違いは何かといえば、ボール投げは、ボールが、軌道に美しい弧を描いて空を飛んでも、かならず地上に落ちてくる。それに対して、ロケットは、軌道に乗れば、以後、自力で、運動することができる。この違いを、どう思われますか。

これは **初動のエネルギー**のちがいののです。

最近山村の公立学校の先生が有名塾顔負けの教育成果をあげている、ということで注目されています。その先生のやり方は、はじめの基礎を徹底的に、繰り返し身に付けさせることだ、ということす。そうなのです。**はじめが大切** **はじめが絶対** なのです。

これは商売としての教育では、高額で売るか、普通は、わかっているでもそうしません。

筑波博で、一粒の種から一万個のトマトの実を成らせた野沢氏に人々が驚きました。

氏は、「特別の種ではありません。普通の種です。」とおっしゃっています。

その育て方は、まず「**はじめに充分の養分を与える**のです」と言っておられます。

これは、当たり前のことでありながら、世間の常識はそうではありません。特に人間を育てる、また教育が、まったく間違った認識で行われています。

人の人格は、生後まもなくの間に、無意識のうちに形成されます。こんなことすら、最近になってから言われ始め、ソニーの井深大氏のような有名な方が言われて、人々はちょっと耳を傾けてきました。鈴木鎮一氏が・・・おや、すべての人間が母国語を話している！音楽も同じ、と鈴木システムの教育をはじめられて70年、世界中から注目をされて、世界の指折りの教育者として認められておられながら、日本ではあまり関心が向けられてこなかったのです。無名の私が言っても、聞いてもらえないなあ・・・といつも思ってきました。

チュウリップをはじめ、球根と言うものは、その中に、すべてが準備されているのです。

私の教え方の大きなことの1つは、「**最も単純な中で、将来に必要な<sup>かなめ</sup>要**をすべて、決して難しさを感じないで身に付けていただく。」というやり方なのです。

美智子妃殿下が結婚なさった時に、妃のピアノの先生のお話を新聞で読みました。

「美智子様は常にその段階で、完成されていました」と。それを読んだ時、美智子様が良い生徒であると同時に、この先生は良い教師だと、思いました。

「習う」ということは、もうレッスンに通わなくなっても、1人で弾ける、一生、ピアノならピアノが弾ける人になる、そのために習うのではないのでしょうか。**自立**が必須です。

ピアノ教師をはじめてから、わたしは、常に「**ロケットを打ち上げるように、必ずピアノの弾ける人になっていただけるように、自立を目指して**」お教えしてきました。

まずこのことが、常識のレッスンと違うことの大きな1つであり、そしてこれが、ゆめのsalon教室の特色なのです。芸を技を学問を、**身につける**、ということは、大変なことなのです。**愛とエネルギー**が必要です。

それをまた、**楽しく**学ばねば、身にはつかないのです。**親、教師には責任**があります。